

平成29年度第1回相生市総合教育会議会議録

日 時	平成29年4月21日（金）13時00分から14時20分
会 場	市役所1号館 3階 議員控室
出席者	谷口 芳紀 市長 萩原 喜樹 教育委員長 小西 毅 教育委員長職務代行 栗原 英子 教育委員 西田 香子 教育委員 浅井 昌平 教育長
説明員	越智 俊之 企画総務部長 玉田 直人 教育次長（管理担当） 石堂 賀人 教育次長（指導担当） 宮崎 義正 管理課長 坂本 浩宣 学校教育課長 番匠 真由美 生涯学習課長 小西 まこと 体育振興課長 横山 和彦 人権教育推進室長 森田 敏雄 管理課副主幹（書記）
傍聴者	なし

1 開会

2 市長挨拶

相生市では、昨年度から地域創生の取り組みとして「相生市もっと活力上昇計画」をスタートさせた。子育て・教育施策、定住促進に加え、相生市の地域資源を最大限に活用し、交流人口の獲得や地域経済の活性化をめざしているところだが、教育分野では平成23年度からの取り組みに加え、新たなスタートを切った年であった。相生市文化会館の開館、ワンピース・イングリッシュ事業による一貫性のある学力向上の取り組み、温水プールのリニューアルオープン、ケータイスマホサミット初開催、子どもたちの学習環境の充実事業など、委員の皆様のご尽力があってそれぞれの事業が順調にスタートできた。改めてお礼を申し上げる。

このような取り組みを進めるなかで、平成28年度の相生市の人口の社会増減はプラス33人となった。

今年度は、交流人口を増加させるため、駅前に観光案内所を設置するなど新たな取り組みを進める。市の財政は非常に厳しい状況に変わりはないが、選択と集中により相生市の更なる活性化に取り組んでいきたいと考えている。また、引き続き、教育の充実のためできる限り教育予算の確保を図ってまいりたいと考えているので、あらゆる面での尽力、助言をお願い申し上げる。

3 協議事項

(1) 相生市の教育に関する重点施策について

ア 平成29年度の重点施策について

管理課長

平成29年度の重点施策については、相生市教育振興基本計画を基本に、平成29年度から推進していく重点事業を各課から9事業の提出をさせていただいた。

(管理課より行政順に事業概要説明)

管理課 「通学費補助拡充事業」

学校教育課 「相生型小中一貫教育事業」、「新ぐんぐん体力アップ事業」、「市内小学校連合音楽鑑賞会」、「ワンピース・イングリッシュ・AIOI事業」

生涯学習課 「相生公民館耐震補強工事」、「放課後児童保育くすの木学級施設整備」

体育振興課 「市民体育館改修事業」

人権教育推進室 「ケータイ・スマホ教室の実施」

谷口市長

子どもの映画鑑賞会もあるのか。

教育次長(管)

子どもの映画会を2回程度、事業として予定を組んでいる。現段階では具体的に何をするかということを検討しているところである。

萩原委員長

通学費補助の件だが、バス通学する児童生徒に対する助成を適応教室に通う児童生徒にも適用するということになっているが、これは今年度から、そういう方向になるのか。

管理課長

今年度から規則を改正して、適用させていく。

萩原委員長

今年度についてはどれくらい適用者がいるのか。

管理課長

現時点では、3名を予定している。予算では60万円程度を考えている。

栗原委員

ワンピース・イングリッシュ・AIOI事業は、田尻悟郎先生の監修を受けてるということで、昨年度は那波中学校と那波小学校に来られて授業をされたと思うが、先ほどの説明で今年度は幼稚園と学び塾についても聞いたが、具体的に何か計画はできているのか。

学校教育課長

今年度の計画については、学び塾のボランティアの方に指導をしていただく機会を考えているが、日程調整が難しいところがあるので、代表の方と話をさせていただくか、学習風景を撮らせていただき、それを見ていただくなど、その様なことを考えている。また、幼稚園の保育については、外国人講師がやっているところを実際に田尻先生に見ていただき、アドバイスを受ける。また、中学校においては、昨年度は田尻先生の模擬授業を見せていただいたが、本年度は実際に相生市の教員が授業をするところを見ていただいて、ご指導を賜りたい。

教育次長（管）

「3協議事項（1）ア」については、ご了解いただいたということでよろしいか。

市長及び教育委員

了解

教育次長（管）

ご意見を踏まえ、平成29年度の事業を進めていく。

3 協議事項

（1）相生市の教育に関する重点施策について

イ その他

教育次長（管）

総合教育会議は市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっている。今後の教育について、教育委員長の相生市の教育に関する所感をお聞かせいただき、続いて市長の教育に関する所感

をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと考えている。

萩原委員長

前回の相生市総合教育会議の中で、相生市のめざす3つの人間像を提案させていただいた。一つ目がやさしさ思いやりのある人づくり。これは心の面。二つ目が心身ともにたくましい人づくり。これが体力面。三つ目が生涯学び続ける人づくりということで、知・徳・体これらの力を兼ね備えた相生市の市民像、これに基づいた教育を行うことがいいのではないかと提案させていただいた。今年度の市長の施政方針の中にもそれぞれの人間像達成の中にも具体的な施策が盛り込まれているということを押見させていただいた。その施策が計画的に実施され、より大きな効果が上げられるということ、今後期待している。また、地域創生の取り組みとして、「相生市もっと活力上昇計画」をスタートし、優しい子育てのまちづくりを提唱され、交流人口の獲得や経済の活性化の取り組みも今後、引き続きお願いしたい。中でも教育分野については、新J I S企画の机や洋式トイレの設置など、学びやすい教育環境の整備も今までと同様をお願いしたい。

今後の相生市の教育のあり方について、先ほど協議された「教育に関する重点施策」も踏まえて、私見を述べさせていただく。

まず、相生市の教育の現状についてだが、昨年10月にこの職について半年余りの間、私はできるだけ市内の幼稚園・小中学校を訪問して、学校園の取り組みや子どもたちの様子を見させていただいた。そこで感じたことは、どの学校園でも、子どもたちが落ち着いて生活できている。そして、しっかり学習に取り組んでいる。もちろん現場の先生方の指導もあると思うが、学校園の取り組みだけでなく、家庭・地域との連携もうまくいっているのではないかと感じた。また、現場と教育委員会各課との連携もスムーズにいつているからこそ、今のような落ち着いた雰囲気でも学習に取り組んでいると思う。それから、今後の相生市の教育について、ただ今ご提案のあった重点施策に基づいて、今年度も教育振興基本計画の推進を図っていききたい。特に、次の3点について、思いを述べさせていただきたいと思う。一つ目は新指導要領実施に向けてということで、先ほどのワンピースのパンフレットにもあったが、平成30年度には幼稚園、平成32年度東京五輪の年には小学校、平成33年度には中学校といったことで、指導要領が変わっていく。その中でも大きく変わるのが英語教育である。小学校では5・6年生が英語教育の教科化、3・4年生については教科ではないが、必修となる。

相生市は以前からALT等の配置を行い、平成4年度から外国語活動について先進的な取り組みを行ってきた。昨年度からはワンピース・イングリッシュ・A I O I事業を行い、グローバル化に向けて幼稚園から小学校まで一貫性のある取り組みが成されている。今年度も引き続きこの事業を推進していただき、教科化に向けて一層、充実を図っていききたいと思う。それから、学校現場にとっては新しい教科を立ち上げるということは、研究とか、大変なことになると思われるので、相生市ではこのワン

ピース・イングリッシュ事業と現場との取り組みをうまくタイアップさせて効果を上げていただきたいと思います。また、平成30年度からは小学校で、平成31年度からは中学校で道徳の教科化が実施される。学校はもとより、家庭・地域との連携を図りながら、一つ目の相生市の人間像である、「優しい思いやりのある人づくり」の実現に向けて取り組みを進めていきたいと思う。

二つ目は、体力の向上である。「新ぐんぐん体力アップ事業」は子どもたちの体力の向上、少しのことでへこたれないたくましさを育てるのに大切な取り組みだと思う。各学校園の実態に即して、二つ目の人間像である「心身共にたくましい人づくり」に努めていきたいと思う。

最後に三つ目だが、生涯学習の推進について 学校・家庭・地域まるごとつながりの一貫教育を進める中で、学校教育だけにとどまることなく、大人になってからも学び続けるという姿勢がこれから一層、大切になってくると思う。三つ目の人間像である「生涯学び続ける人づくり」達成のため生涯学習の一層の充実を図っていききたいと思う。

谷口市長

私は近年の状況から、教育の充実を図ることが地域の魅力づくりにつながり、地域創生の柱として重要であると考えている。また、私はまちづくりの基本は人づくりであると考えている。これからの相生のまちづくりを考える上で、教育の充実は非常に重要である。そういった視点から、当市の今後の教育に期待すべき点について、2点意見を申し上げる。まず、学校教育分野については、子どもたちの状態や学力においても、非常にいい状態であると認識している。この状態を継続させるために、学校、家庭、地域が同じ方向を向いて子どもたちを育み、見守ることが重要ではないかと考える。また、幼稚園、小学校、中学校が一貫性のある教育を行い、生きる力を持ったたくましい子どもたちを育てることが重要であると考えている。昨年スタートさせた、ワンピース・イングリッシュ・AIOI事業に代表されるよう、一貫性のある教育を図っていただけるよう、期待をしている。そのために教育委員会、現場の先生方、保護者、地域の方々が一丸となって相生の教育は素晴らしいと言われるものを作り上げてもらいたいと思う。私としても、子どもたちの学びやすい環境づくりを進める必要があると思うので、学校の教育環境整備、また気候変動の著しい昨今の状況を考え、空調対策、それぞれ少し時間がかかるが、ハード面の整備を進めていきたいと考える。また子どもたちの数が減少していく中で、統合問題について、教育的見地から引き続き検討いただくようお願いを申し上げます。

次に生涯学習分野では、子どもから大人までスポーツ・文化・芸術を楽しめる、ソフト分野の環境づくりや、生涯を通じて楽しめるスポーツ活動を推進していただいている。新たな文化会館も開館し、体育館も今年度改修を行い、リニューアルする。ハード面については、一定の充実は図れつつあると考えている。ハード面と並行しながら、更なるソフト面の充実を図るため市民の意見を十分踏まえ、また、協力をいただきながら、様々な検討を進めていただきたいと思います。最後に、今年度の取り組

みをスタートさせるにあたり、萩原委員長をはじめ、各委員様にはこれまでと変わらぬ、格段の理解と協力をお願いを申し上げます。

浅井教育長

道徳について、今年がちょうど教科書を選ぶ年になっており、7月くらいには最終的に西播地域4市3町の統一した教科書にどういったものを使うかということを決めさせていただこうと考えている。

あと、文化会館についてだが、平成28年度は当初10万人の利用を見込んでおったが、結果的には約18万人の市民のご利用があった。それだけ市民の方々が、市民会館を望んでおられたということである。平成29年度が2年目になり、いよいよ軌道に乗せる時と思っているので、気を引き締めて色々な知恵を出しながらやっていきたいと考えている。

萩原委員長

大ホールの音響は、他市に負けていないとも聞いているので、もっと宣伝していただき、市外からも利用していただければと思う。

浅井教育長

オオサカ・シオンの宮川 彬良さんが、このホールは関西でも屈指の域だと折り紙を付けてくださっているので、宣伝させていただく。

西田委員

舞台も使いやすく、バックも広いので吊り込みから何から大きいホールである。舞台面も使いやすい。

あと、文化祭のことだが、現在は市民参加型の皆さんに出ていただくものだが、文化祭らしい色々な分野がまとまってできるようなもの、チケットが売れるくらいのものもいいのではないかと思う。今のように皆さんに使っていただくことに加えて、これが相生といったものがあればいいかと思う。

浅井教育長

市内の小学校の連合音楽鑑賞会、今回は既に決まったメニューでさせていただくが、幅はこれから広げていくので、考慮していきたい。

小西委員

生涯学習の勧めというのは大人になってからも勉強しましょうというもので、それは金ヶ崎学園があるが、中間層のものは何かあるのか。

萩原委員長

ないと思う。公民館でも、習い事は定年退職された方が多かった。若い方も来ていただければと思うが、子どもさんがおられたら、なかなか放っておいてという訳にはいかない。私も一時預かりの施設を使用しながらできないかということ考えたこともあった。そういったことをもっと進めていければ、子育て世代も参加しやすいかと思う。

谷口市長

働き盛りは子どもさんもおられるので、学び続けるということは大変である。

小西委員

私の周りでも若い人たちがいる中で、子どもを育てていても何が正しいのか分からないと聞いてくる方がいる。そういう基準を何で調べるのかというと、皆インターネットで調べている。子どもを育てる時こういう場合はどうしたらいいかと色々な質問を参考にして、答えを出している。こういうことを見ていると、市内の塾でもどういった授業をしているかと思って見てみると、ネットを使って画面の向こうの講師がしゃべっているのを見ながら勉強をしている。同じように親も家でそういった勉強ができないかと、常識であったり考え方も文章を作ると読まない。映像であれば見る。私の周りでも映像の教育は皆関心を持って見るのに、文章は全然見ないことがあるので、このホームページを見ればこういったものが理解できるといったものが簡単にムービーを見られる。そういったことになってこないかと、いつも思っている。時間が無くて学習ができないのではなく、何かきっかけといったものがあれば、もっとやりやすいのではないかと思う。

子どもに親が教えられない時代になってきているのではないかと思う。そのため、そういった方が何か勉強ができないかと考えている。

栗原委員

最近の人たちは、個人主義のように感じる。地域で繋がりがあっても、そこで繋がろうとはしない、持たなくてもいいようにしてしまっている。わざわざ、ネットを使って相生の人が東京の情報をもらって子育ての参考になるのかと、地域のことは地域の人から学んだり、お互いの情報交換をしていくことが一番いいような気がするが、繋がっていける環境をどの世代でも作っていった方がいいように思う。

小西委員

多分、合理的であると思う。わざわざ地域の集まりに行くという気はないと思う。自分の子どもの友達の間や、自分の趣味の間関係の集まりは行く。そういう中で、色々な年代がいて、勉強ができればいいと思うが、多分、情報を得たりはあるかもしれないが、勉強や学習をしたりといったところまではなかなかいかない。

谷口市長

相生の子どもは、学校の帰りにあいあい広場にみんな行っているのか。

栗原委員

はい。学童に入っていない子はそこで5時までおり、中学生の子もクラブが無いときはそこに来て、遊んでいる。そこに地域の大人の人も入って行って話をしている。子育て世代のお母さん方も興味がある方は、そこに足を踏み入れて色々な情報を持って帰ったりしている。

西田委員

相生には、食事が一人という子どもたちのための子ども食堂というものはないのか。

浅井教育長

相生にはない。それと給食の無料化で、中学生までは確実に昼はお腹一杯食べられている。無料化になる前は、中学生でも昼を食べられない生徒が実際にいた。

小西委員

ホワイトカラーの多い町であれば、残業が当たり前のようにあるが、相生市では、お母さんが帰ってくる時間が8時、9時といった家がそこまで多くは無い。昼間は働いているが、夕方5時、6時には帰って、そこからご飯は一緒に食べるという家が多い。

谷口市長

体力の面では、兵庫県は全国平均と比べてどうか。

浅井教育長

全国平均と比べると並である。50メートル走などが平均より上であった。

学校教育課長

相生の子どもたちの昨年の全国・体力運動能力調査の結果であるが、相生の子どもたちの弱いところは、柔軟性となっている。強いところでは持久力が相生の子どもたちは小学校も中学校も全国より少し高いという結果が出ている。走る面でも平均より少し上ということであるので、力を入れないといけないと思われる所は柔軟性ではないかと思う。

小西委員

ワンピース・イングリッシュの資料では最後に目標で英語が好きと感じる児童の割合が80%と書いてあるが、同じような感じで体力の向上は何か目標があるのか。

学校教育課長

こちらの方は全国との比較を目標にしており、全国の数値と比べてそれを上回るように、全国を上回ることを目標にしている。

浅井教育長

国が基準をおいており、昭和60年当時の子どもの体力と比べてどうかということが基準になっている。

谷口市長

教育委員会の取り組みで、教育委員会だよりなどが広報に折り込んで全世帯に配布されたことは非常にいいことだと思う。

栗原委員

自分の子どもが幼稚園に行っていたら、幼稚園のことは分かるが。小学校や中学校がどうなっているかとかは知らない。また、例えば保育所や私立の幼稚園に行っている保護者は、市の取り組みを知らない場合がある。

浅井教育長

10月の広報紙に学力と体力の状況も公表している。

教育次長（管）

今回いただいた意見を踏まえ、事務局として施策に反映すべく検討させていただき、また、関係部課とも協議をし、次回、12月に予定している本会議の場において協議をお願いします。その協議結果により、予算措置が必要な事項については、翌年度以降の予算措置について反映できるよう努めてまいりたいと考えている。

萩原委員長 閉会の挨拶

平成29年度第1回相生市総合教育会議を終了